



第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリハイスクール宣言Part II			自校のスクールアクションプラン						
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向 けて)	キーワード (該当ワードを○で囲 む)	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABC DE)	次年度の主な課題	
○○○○○ 地地地地グ 域域域域 防交環社 災流境会 をのをを 推抛守産教 進点り業育 すと創にで るな造寄人 学るす与材 校学るすを 校学育 校学て 校学る 学校	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	アグリハイスクール 進路実現、高大連携、 70%以上学習、 STEM教育 イノベーション教育	環境緑地	造園2級受験推進	教育課程の見直しによって、在学中に受験機会が拡大した厚生労働省技術検定造園2級の受験内容や合格者に授業料減免措置を行っている4年制大学等の情報を周知する。2年生への年度内周知目標を80%とする。	4	C	受験内容や条件については周知できた。授業料の減免措置等について理解度が低いため周知に向け情報提供方法を工夫したい。
			農業技術	課題解決力の養成	課題研究や草花の授業時にキウイフルーツにおける受粉用花粉の生産に向けた学習を通して、課題解決に向けて試行錯誤することや他者とコミュニケーションを図り、聞く力や伝える力の大切さを学習する。実習記録から習熟度を測る。	4	B	内容は、年度により異なるが重点的に生徒に身に付けさせるべき能力であるため、継続的に取り組んでいきたい。	
	2	世界と日本をつなぐグローバル教育	グローバル教育、 国際交流	環境緑地	地域山林から持続可能な開発を学ぶ	林業体験実習を2年生対象に実施し、森林の多面的機能や地球環境・持続可能な開発目標の周知を行う。実施後アンケートによって習熟度を測る。	6,7 12,15	/	本年度は予算不足により未実施となった。予算の獲得が課題である。
				環境緑地 農業技術	異文化交流から学ぶ	地域ロータリークラブの実施する交換留学生制度に積極的に参加し、留学生と専門教科の体験活動を通じて互いの文化を認めることのできる態度を培う。	16	/	現時点で未実施。ロータリークラブとの連絡や調整を行う事が必要である。
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、特産物、 GAP、経営	農業技術	GAPから学ぶ	福岡県GAP認証に向けた活動を通して、生産工程における安全性について学習し、更に精度の高い生産工程に必要なものは何か考えさせる機会を設けて想像力の伸長を図る。実施後アンケートによって習熟度を測る。	2	B	アンケート内容や目標を更に精選し、効果の高い取組みとしていきたい。
				環境緑地	地域産業の現状を知る	2年生を対象に行う林業体験実習や事前事後学習を通して、我が国における林業の状況や国が重点的に取り組むべき産業について周知する。実施後、学習プリントの記述内容を確認し、習熟度を測る。	12,15	/	本年度は予算不足により未実施となった。予算の獲得が課題である。
	4	地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育	地域貢献、6次産業化、 食農教育、経営、 HACCP	環境緑地 農業技術	特技を活用する場面の設定	生徒が専門科目で身に付けた知識や技術を活用して、地域コミュニティセンターにおける地域住民への園芸・環境講座の指導役を行う。取り組み終了後、振り返りを行い生徒自身が考える成果や取り組みの効果を集約する。	5,8	B	地域の催し物や講座に積極的な参加ができるように、授業の成果や振り返りを整理する。
				環境緑地 農業技術	山林の多面的機能を学ぶ	学校演習林の下草刈り等管理実習を通して、地域の豊かな森林資源や機能を学習する。また、不法に投棄された廃棄物が人間生活にどのような影響を及ぼすか考える機会とする。	6,12	B	天候不良によって一部延期となったクラスもあるが、農業系学科以外の生徒においても取り組みを実施し、成果を挙げることができた。
5	地域環境を守り、創造する教育	環境創造、国土保全、 循環型農業、循環型社会	環境緑地 農業技術	創造力を養成する	みどりの愛護のつどいへの出品へ向けて、地域特産品や地域の文化を学び、新たなものを創造するためにどのような事が重要であるか体験的に学習させる。	4,17	A	次年度以降も計画を行い、重点的に取り組んでいきたい。	
			農業技術	異年齢間からコミュニケーションを学ぶ	授業で身に付けた知識や技術を活用して、地域の園児や児童を対象とした農業体験講座を行う。この活動から更に農業科目への学習に向かう意欲の向上を図るとともに、異年齢間におけるコミュニケーションに必要なことを考えさせる機会とする。	2,4	A	次年度以降も継続して取り組みを行っていきけるように連絡体制を整えていきたい。	
7	Society5.0の時代に 応じた教育	スマート農業、 ICTを用いた学習	農業技術	農作業の省力化について学ぶ	社会人講師招聘事業や現場実習において、ドローンを活用してどのような機器や操作方法で薬剤散布等を行っているか学習し、農業における省力化について知る機会とする。	8,9	/	具体的方策に挙げた取り組みは実施できなかったが、次年度も実施可能な計画を行い重点的に取り組んでいきたい。	
8	地域防災を推進する教育	地域防災、多面的機能	環境緑地 農業技術	地域防災について知る	防災避難訓練の実施、農地が防災にどのような役割を持っているか授業内で学習する。また、学校設置行政区のハザードマップを校内に掲示し周知する。	3,16	B	防災教育から学習できることは多岐に渡るため、重点的に取り組んでいきたい。	

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A 90～100%の成果を得られた B 70～89%の成果を得られた C 40～69%の成果を得られた D 10～39%の成果を得られた E 0～9%の成果を得られた